

⑰実用新案公報 (Y2) 昭58-52204

⑯Int.Cl.⁸
B 65 D 51/18

識別記号

府内整理番号
6862-3 E

⑯⑯公告 昭和58年(1983)11月28日

(全2頁)

1

⑤王冠

②実願 昭55-104717
②出願 昭55(1980)7月24日
⑥公開 昭57-29548
④昭57(1982)2月16日⑦考案者 林田光治
奈良県北葛城郡広陵町寺戸27番地⑦出願人 三笠産業株式会社
奈良県北葛城郡広陵町萱野651の1⑦代理人 弁理士 斎藤侑外2名
⑯引用文献

実開昭51-56352 (JP, U)

⑤実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製の瓶蓋1の上部に形成した鍔部2に横溝3を形成し、又該瓶蓋1に金属製の冠頭4を被せ、該冠頭4を前記横溝3内に絞縮5し、かつ該絞縮部5に、上下方向に平行に乃至下方程幅広となるテーパーを形成した形状の高さHを有する架橋部6を、絞縮残余部として形成し、又架橋部6を除いた前記絞縮部5において、横方向に、かつ前記架橋6の上端部より低い位置に切断線7を形成し、更に前記冠頭4に、つまみ部8及び該つまみ部8から前記切断線7方向に向う弱化部9,10,11を形成したことを特徴とする王冠。

考案の詳細な説明

この考案は王冠に関するものである。従来、第1図、及び第2図に示すような王冠が用いられている。

これを図について説明すると、第1図において、aは合成樹脂製の瓶蓋であり、その上部の鍔部bに横溝dが形成されている。cは外筒を示す。又前記瓶蓋aにはアルミニウム等の冠頭eが被せられており、そして該冠頭eは前記横溝d内に絞縮f

2

させられており、かつ該絞縮fによりこの部分はごく脆弱化させられている。又冠頭eは、瓶口gの四部hにかしめられるが、その際前記絞縮部fは下方に引張られる結果、一層脆弱化させられてい5る。このため消費者等が、つまみiを持ち、図において右方に引張ると、冠頭eは、弱化線jにそつて裂け、前記絞縮部fから容易に裂きとれるようになつている。

ところが、このような王冠は下記の如き難点がある。即ち(1)封緘操作中に絞縮部fにおいて破断してしまい、かつ破断個は開離して商品価値を著しく低下させる。又輸送途中において不注意な取扱いにより、前記絞縮部fは切れてしまい、開封されてしまう場合がある。

15 次に、第2図に示す如く、その絞縮部f'にミシン目kを形成したものがある。この王冠は前記の如き難点を有しないが、下記の如き他の難点を有している。即ち消費者等が、この王冠を開封する場合、ミシン目kは所謂バリを生じ、それにより怪我20の恐れを生ずる。

この考案は上記の状況にかんがみてなされたもので、この考案の目的は輸送途中の取扱いにおいて、前記の如く開封してしまうことがなく、かつ開封に際してはバリ等の生じる恐れのない王冠を得25ることである。

この考案の構成を図について述べると、第3図～第5図において、合成樹脂製の瓶蓋1の上部に形成した鍔部2に横溝3を形成し、又該瓶蓋1に金属製の冠頭4を被せ、該冠頭4を前記横溝3内に絞縮5し、かつ該絞縮部5に、上下方向に平行に乃至下方程幅広となるテーパーを形成した形状の高さHを有する架橋部6を、絞縮残余部として形成し、又前記絞縮部5において横方向に切断線7を形成し、更に前記冠頭4に、つまみ部8及び該つまみ部8から前記切断線7に至る弱化部9,10,11を形成したことを特徴とする王冠である。

なお図中12は内筒、13は外筒、14,14'は突起を

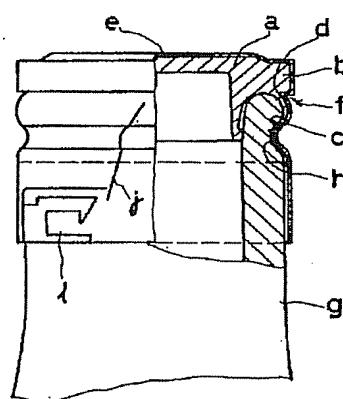
3

示す、又前記弱化部9,10,11は地岐状部と切れ目から成ることを示すが、これに限るものではなく、この他ミシン目等であつてもよく、要するに消費者等が裂き切り易く、弱化させて形成されればよく、そのようなものを指すものである。

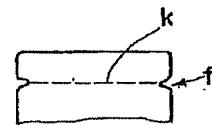
又前記架橋部6は、絞縮部5に較べ、比較的残余するだけで、完全な形で残余しなくても差支えはない。即ち若干絞縮されていても差支えない。

消費者等はつまみ8を持ち、弱化部9,10,11を裂きとり、前記切断線7に至り、更に架橋部6を引き裂いて、冠頭4下部を裂き取り、これにより瓶口に対するかしめを解除し、かつ該裂き取りの残余を瓶蓋1と共に栓として用いる。この考案は前記の如く構成され、切断線7は絞縮部5に形成され、架橋部6には形成されていないので、この王冠を装着した瓶詰商品の輸送途中の取扱いにおいて、前記従来例に示すような不注意等による開封を防止することができる。

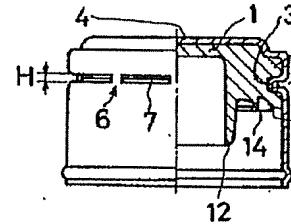
第1図



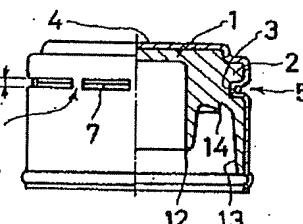
第2図



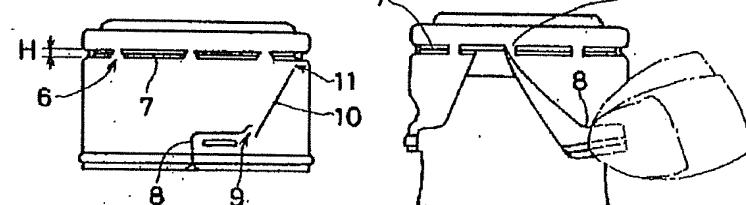
第3図



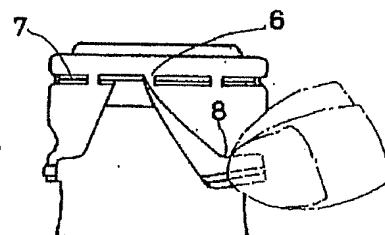
第4図



第5図



第6図



しかも切断線7は、架橋部6の上端部より低い位置に形成したことにより、架橋部6は裂切られる場合、その上端部から切られるため、瓶蓋1においては、その切取端部は常に切断線7により上方に、即ち内側に若干入った位置に形成されるため、これを扱う者に怪我の恐れをなくすることができる。

図面の簡単な説明

第1図は従来の王冠の部分断面図、第2図は他の、従来の王冠の部分正面図、第3図はこの考案の実施例を示すもので王冠の半断面図、第4図はこの考案の他の実施例を示す王冠の半断面図、第5図はこの考案の更に他の実施例を示す王冠の正面図、第6図は、第3図に示す王冠の開封状態を示す図である。

1……瓶蓋、2……鋸部、3……横溝、4……冠頭、
5……絞縮部、6……架橋部、7……切断線、8……つまみ部、9,10,11……弱化線、H……高さ。